

明日 20 日は「大寒」(だいかん)。二十四節気のひとつで、一年で最も寒さが厳しい時期です。空気が冴え渡り、青白く輝く月を「寒月」(かんげつ)と言います。白い息を吐きながら夜空を見上げる時、時空を超えた幻想的な世界へ誘われているような感じがします。

寒月や門なき寺の天高し 与謝蕪村

さて、ここ常陸太田は「寒晴」(かんばれ)の日が続いています。本校では1月12日と16日、地域探究の授業の一環で、本校の福祉コースの生徒と近くの幼稚園の生徒が凧あげを行いました。園児達が凧を空高くあげようと思いきり走っている姿と、それを笑顔で追いかけながらサポートする本校生徒の姿がとても微笑ましく見えました。少子化が進む現代社会についての考察も深まったことと思います。人と人とが触れ合い、時間を共有することが、生を支える大切な「絆」になります。この授業において、その一端を理解できたことと思います。



今、全国から能登の被災地に向けて、多くの「祈り」が届けられています。「祈り」とは「心を寄せる」こと。我々も日々「心を寄せて」過ごしてまいりましょう。

寒日と大きく包む園児の手 幸恵

